

特 集

肥満外科 A to Z

肥満症は糖尿病や高血圧、高脂血症といった代謝異常に加えて、心不全や冠動脈疾患、睡眠時無呼吸症候群、腎臓病、精神疾患を合併して臓器機能障害を引き起こす疾患です。肥満症は欧米では一般的な疾患で、手術治療も広く行われており、その有用性が確立されています。

わが国においても、BMI 25 kg/m² 以上の肥満者の割合は男性 32.2%、女性 21.9%（平成 30 年度 厚生労働省の国民健康・栄養調査）と、決して稀ではありません。肥満症に対する外科治療は、単に手術や術後急性期の合併症に対する管理を施行して終わるのではなく、多職種と力を合わせて術前後の栄養療法・心理サポート・併存疾患の管理を行うことで始めて十分な効果を発揮します。本特集号では、肥満症に対する手術治療および、外科医が知っておくべき併存疾患、栄養管理、術後フォローアップにもスポットライトを当てました。手術のみならず肥満症外科治療全体について理解を深めていただけたら幸いです。